

《課題名》

幽門側胃切除術後の残胃形態分類と術後経過の比較検討

《対象者》

当院で 2006 年 4 月から 2026 年 3 月までに胃癌に対し幽門側胃切除術を施行した患者さん

研究協力をお願い

当科では「幽門側胃切除術後の残胃形態分類と術後経過の検討」という研究を行います。この研究は、当院で 2006 年 4 月から 2026 年 3 月までに胃癌に対し幽門側胃切除術を施行した患者さんの臨床情報を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただきず、この掲示などによるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。また希望されれば、計画書等研究に関連する資料を個人情報保護と研究に支障がない範囲に限り閲覧することができます。

(1) 研究の概要について

研究課題名： 幽門側胃切除術後の残胃形態分類と術後経過の比較検討

研究期間： 2017 年 9 月 11 日～2031 年 3 月

実施責任者： 滋賀医科大学 消化器外科 講師 貝田 佐知子

(2) 研究の意義、目的について

《研究の意義、目的》

胃癌は罹患率の高い疾患であり、根治切除術は Stage I から III までの胃癌については最も効果的な治療法です。

その中で、胃体部および幽門部の胃癌では幽門側胃切除が最も一般的な手術法であり、その再建方法として B-I 法再建が最もよく行われている再建法です。

B-I 法再建後の患者さんの術後経過について、残胃の形態で分類した試みはこれまでに報告がありません。

B-I 法再建後の患者さんの残胃の形を、術後透視検査の結果を用いて分類して検討したところ、残胃の形が吻合部を中心に大弯側にかけて直線的であるものを A 群、丸みを帯びているものを B 群と 2 群に分類することができました。

この結果から、幽門側胃切除術後の術後経過について検討し、どの形が望ましいのかを臨床経過、臨床病理学的因子について評価します。

(3) 研究の方法について

《研究の方法》

既存の検査結果を用いた観察研究。当院で 2006 年 4 月から 2026 年 3 月までに治療をおこなった患者さんの中で、胃癌で幽門側胃切除を行った方の臨床経過、検査値を評価します。また、電子カルテより患者さんの年齢、性別、採血結果、合併症発症の有無と種類、術後の栄養状態、体重の推移といった情報を利用します。術後長期の栄養評価のため、2031 年 3 月の期間までの採血結果（白血球、リンパ球数、好中球数、CRP、CEA、CA19-9）、体重の推移を利用します。

(4) 予測される結果（利益・不利益）について

参加頂いた場合の利益・不利益はありません。

(5) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人情報を直接同定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。

(6) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌およびデータベースなどで公表します。

(7) 利用又は提供の停止

研究対象者又はその代理人の求めに応じて、研究対象者が識別される試料・情報の利用（又は他の研究への提供を）停止することができます。停止を求められる場合には、下記（8）にご連絡ください。

(8) 問い合わせ等の連絡先

滋賀医科大学 消化器外科 貝田 佐知子

住所：520-2192 滋賀県大津市瀬田月輪町

電話番号：077-548-2238

メールアドレス：hqsurge1@belle.shiga-med.ac.jp